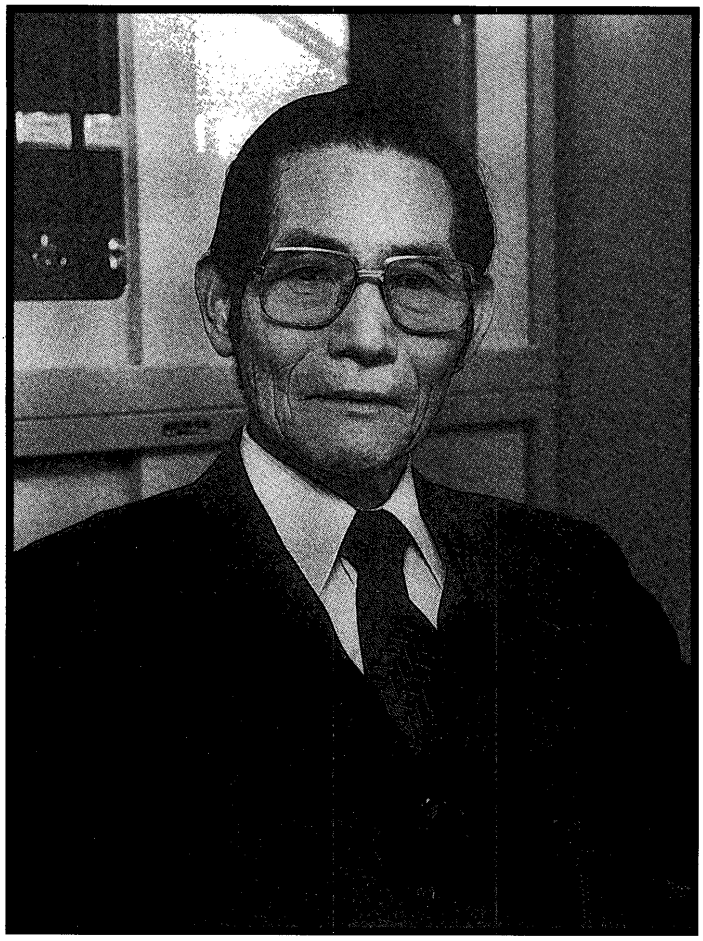

故 川 野 襄 二 先生

(1925～2001)

元岐阜歯科学会理事・朝日大学名誉教授・元朝日大学歯学部歯科補綴学第一講座教授，川野襄二先生は平成13年5月5日逝去されました．ここに謹んで弔意を表します．

川　野　襄　二　先生　ご経歴

1925(大正13)年3月14日	ご生誕
1949(昭和24)年	大阪歯科医学専門学校ご卒業　同学補綴学教室副手
1951(昭和26)年	大阪歯科大学　歯科補綴学第一講座　助手
1954(昭和29)年	大阪歯科大学　歯科補綴学第一講座　講師
1961(昭和36)年	医学博士取得(京都府立医科大学)
	大阪歯科大学　歯科補綴学第一講座　大学院講師
1966(昭和41)年	大阪歯科大学　歯科補綴学第三講座　助教授および大学院助教授
1969(昭和44)年	歯科医師国家試験委員に就任，昭和47年および52年にも務められました.
1971(昭和46)年3月	大阪歯科大学　歯科補綴学第三講座　教授
4月	岐阜歯科大学　歯学部歯科補綴学第一講座教授に就任
1973(昭和48)年	岐阜歯科大学　附属歯科衛生士学校　講師併任
1977(昭和52)年	岐阜歯科大学大学院教授を併任
	第1回補綴学教室同窓会が川野先生を初代会長として開催
1981(昭和56)年	日本補綴歯科学会副会長および東海支部長に就任
	岐阜歯科学会理事　雑誌編集委員長に就任
1985(昭和60)年	岐阜歯科大学から朝日大学に改称
1988(昭和63)年	第80回日本補綴歯科学会学術大会で大会長就任
1989(平成元)年	岐阜歯科学会会計理事並びに朝日大学評議員に就任
	朝日大学附属病院　病院長に就任
1991(平成3)年	ご退職
	朝日大学名誉教授の称号を授与
2001(平成13)年春	勲四等旭日小綬章を受賞（叙勲）
5月5日	ご逝去

その他，大学および学会において多数の重責につかれた.

川野襄二先生を偲ぶ

朝日大学歯学部歯科補綴学講座　長　澤　　亨

本学名誉教授川野襄二先生が平成13年5月5日ご逝去された．ここに故川野襄二教授の生前のご功績を偲び，謹んでご冥福をお祈りいたします．

川野襄二教授は岐阜歯科大学が創設された昭和46年大阪歯科大学より赴任された．歯科補綴学第一講座担当であった．私が川野先生の後を継いだ二代目である．しかし，私と故川野教授とは年齢が一回り以上はなれていた．われわれは学会などで他の大学の人たちと顔を合わせているうちに親しくなる．しかし，だいたい年齢が近いとか，研究領域が同一とか，同じ大学の先輩，後輩の関係などの場合に親しくなるのである．従って年齢は離れている，研究領域が異なる，出身大学も異なる川野教授とは親しく話したことはなかった．川野先生はだいたい痩せぎすであった．確か1988年の日本補綴歯科学会が川野先生の大会長で岐阜で開催された．私が岐阜へ来たのはこのときが二度目であった(最初は1985年IADRの日本部会が当時の岐阜歯科大学で開催されたときであった．岐阜グランドホテルに泊まってタクシーに「岐阜歯科大学」というと，PDIにつれて行かれたことを思い出す)．会場周辺で川野先生が歩いておられるのを見て，ずいぶん身体がちじこまったように見えた．その時に「お疲れさまです」「やあ，どうもご苦労様です」と挨拶を交わしただけである．その時は私が川野先生の後を継ぐなんてことはまったく考えてもいなかった．1991年の3月で川野教授は朝日大学を定年退官された．私が当講座へ赴任したのは1991年11月である．そのような関係で結局川野教授とは口を利く機会もなかった．学会場で挨拶したきりである．その川野教授が2001年5月逝去された．丁度大学を去られて10年であった．

川野教授は朝日大学歯学部歯科補綴学講座の初代教授であり，われわれ朝日大学職員の大先輩である．先生は生前のご功績により，勲四等旭日小綬章を受章され，さらにご逝去に際して従五位に叙せられた．謹んでお悔やみ申し上げます．

川野襄二先生を偲ぶ

朝日大学歯科臨床研究所附属歯科診療所　山　内　六　男

朝日大学名誉教授川野襄二先生が平成13年５月５日に享年78歳で永眠されました．

川野先生は，岐阜歯科大学，現朝日大学歯学部歯科補綴学第１講座の初代教授として大阪歯科大学より昭和46年に赴任されました．以来，基礎実習の模型作り，シラバス作り，あるいは臨床実習の準備など，全く無のところから現在の歯科補綴学講座の体系を作られました．

卒業生が多数医局に残り始めるとともに，研究，教育，臨床と忙しさは増すばかりでしたが，先生は合間をぬって医局員を柳が瀬に息抜きに連れて行って下さいました．医局員が騒いでいるのをじっとお酒を飲みながら見ておられる姿が今でも思い出されます．また，先生はお煙草が大好きで，教授室に入りますとお部屋が煙草の煙で充満しており，煙草を吸わない私は体全体に煙草がしみるような感じを受けたことは，今では懐かしい思い出です．

先生のご業績を見ますと，まず歯科医学の研究分野に筋電図学的手法をわが国においていち早く取り入れられ，家兎咀嚼筋の筋電位に関する研究により京都府立医科大学より医学博士の学位を授与されています．

朝日大学に赴任されてからの研究では，まず有床義歯関連材料の生物学的評価として，高速液体クロマトグラフィーを用いた残留モニマーの測定法を確立し，この手法により数々の業績をあげられたことにあります．次いで，その当時あまり研究が行われていなかった補綴用材料の表面性状について研究を進められ，材料表面の性状が臨床的にも，細菌学的にも，プラークコントロールにとって重要であることを明らかにされました．また，電子スピン共鳴法を用いた常温重合レジンの重合過程やグラスアイオノマーセメントの硬化機構の解明は，世界に類を見ない研究です．一方，世界的にも研究の少なかったインプラントの口腔感覚に関しても研究を進められ，その後のインプラント補綴における優れた貢献をなされました．従来，経験的に行われていた下顎位修正による顎関節症の治療法の有効性，またバイトプレートの種類や咬合挙上量の違いによる治療効果について筋電図学的および運動学的に明らかにされ，顎関節症治療に多大な貢献をなされました．以上の研究から在職中には多くの学位論文を出されています．その他，補綴用材料に関する理工学的研究，ブラキシズムおよび顎関節症に関する筋電図学的研究など多くの論文を残されています．

教育についてみますと，著書である“歯学生のパーシャルデンチャー”は，約20年前に出版されましたが，それ以来幾度となく版を重ね，現在も多くの大学において教科書として採用され，名著の誉れ高い教科書です．

一方，臨床について特筆すべきことは平成２年度からの２年間，病院長として大学発展に尽くされたことをあげることができます．従来，臨床実習では患者配当を受け，インストラクターの指導のもと，学生が治療するといった形式でした．しかし，当時患者数が激減しており，この形式を続けていれば臨床教育の患者確保が難しいことから，見学実習という思い切った変換を提案されました．現在，患者減少がくい止められ，増加に転じたのも先生の導入されましたこの形式の臨床実習が関与しているといえます．

以上のように多くのご業績を残されました川野先生は，これらの業績によってこの春勲四等旭日小綬章を叙勲されました．また，５月10日には皇居にて天皇陛下から勲章を拝領される予定となっておりましたが，かなわぬこととなり，大変残念でなりません．

先生は，ご病気のため大変お好きでした煙草とお酒をここ10年止めておられましたが，どうか天国で思う存分煙草の煙の中でお酒を飲んで頂きたいと思います．謹んで先生のご冥福をお祈りいたします．